流山の歴史と出会えた 流山本町・江戸回廊めぐり

日本共産党 流山北部後援会 主催

４月２日（土）、北部後援会主催の「流山本町回廊めぐり」に10名が参加しました。

今年１００周年を迎えた流山駅から、「流山史跡ガイドの会」のガイドさんの案内でスタート。

あいにくの曇り空で寒い日でしたが、「江戸回廊マップ」で流山市の歴史をうかがうことができました。

市役所前では、ここに県庁が置かれ、２万２千坪の広さがあったこと。県庁職員が50人位の方がいたことなど、ガイドさんならではの話を伺うことができ、皆さん熱心に、話に聞き入りました。

広小路は、上野をまねて名前が付けられたこと、商店街などに、行燈（あんどん）を門前に置くようになり、80軒位に広がってきています。一茶双樹記念館なども回りました。

やはりマップだけの散策より、ガイドさんの案内でより深く４００年位の歴史をたどることができて有意義な時間を過ごすことができ、今度はもう少し時間をとって歩きたいと思いました。

参加者の方々も、こんなに近いのに知らないことがわかって、楽しかったとの感想が出ていました。

上：光明院で説明を聞く参加者
下：万華鏡ギャラリー見世蔵前

２０１６流山憲法集会

憲法の目指すほんとの平和は

お話「憲法学から見た2015年安保体制」

集団的自衛権・後方支援と憲法９条と73条

講師　木村草太さん

東京大学卒。首都大学東京 教授

テレビ朝日「報道ステーション」コメンテーター

とき　5月22日（日）

午後1時30分～

ところ　流山市生涯学習センター多目的ホール

資料代５００円（１８歳以下無料）

九条の会・流山　主催

選挙目当てでない保育政策を

「保育所落ちた」が国中を保育所問題に目を向けさせた。母親が社会人として働く権利を守るため、また生活のために働かなければならない母親のため、安心してあずけられる保育所を願っている。しかし、頼みの綱の保育所に入れない事態に。

保育所の受け入れを増やせばと安易に決めようとする国。安全な保育など考えもしないで、危険な場所を作っている。

保育士の待遇改善は、給与が低すぎるのはもちろんだが、それだけではない。一人が見る人数しかり、過酷な勤務態勢しかりだ。家庭を持つ男性の保育士はさらに厳しい。

国が放棄して公営保育所を激減させ、民間委託にした結果である。

また、国民の暮らしが、共働きしなければ生活できないところに来ていることもわかっていない。一般の会社での働き方も親たちの負担も。まして、子どもの負担も大きい。

国は選挙目当ての小手先の策でなく、国民全体の問題として、少子化に歯止めをかけるためにも方策を考えねばならない。

税金の集め方、使い方に目を向ければ、いかに国民のための予算が少ないかに気づくはず。予算を少なくしてそれを国民が取り合い、足を引っ張り合うような構図にしていくことを憂慮する。

もう一度、国全体の「金」の流れに注目して。共産党に期待。　Ｙ

参加者からの感想

北部後援会主催の「流山本町回廊めぐり」に参加しました。以前にも見て回りましたが、今回はガイドさん付きで、改めて歴史を知ることができました。

まず、千葉県で初めて県庁が置かれたこと、今の旧街道は商業の街として栄えたこと。常与寺は流山小学校・千葉大の発祥の地。近藤勇陣屋跡。小林一茶が立ち寄った秋元本家などなど。ぞくぞくしながら見て回りました。老いても好奇心を持つことが脳の活性化と健康の秘訣かなと…。これからも、このような催しをやって行けたらと思いました。

東深井　菊池

家から運河駅への途中。コブシ？の花のみごとな大木です。　菊池

リフレッシュ

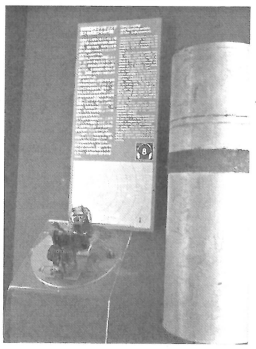
長崎原爆資料館を訪ねて

先月、長崎の原爆資料館を訪れる機会を得た。入口を通るとらせん状の歩道があり、その壁面には現代から5年ごとに年号が遡っていく。１９４５年にたどり着いた場所には原爆投下の11：02分を指し示した壊れた時計（写真＝下左）が展示されていた。多くの展示物は広島と同じように折れ曲がった鉄柱、凄まじい熱線で溶けて繋ぎあったびん、焼け焦げたごはんがはいっている弁当箱、梯子と人影が写った壁面などなど、どれもその当時の様子を想像させる酷い姿のものばかりであった。歩みを進めていくと、目に止まったものが・・・。

「原爆観測用ラジオゾンデ（写真＝下右）」。原爆投下と同時に落とされた３個の落下傘付き爆圧等計測器で、原爆の威力、爆圧や強度、熱度などを測定する機器のことだった。「原爆が地上５００ｍで炸裂した時、落下傘に吊るされたラジオゾンデは高度４０００ｍにあったが、次第に東方に浮遊し普賢岳を越え３地点に落下した。その後、落下物は米海軍などによって調査のため持ち去られた」と記してあった。

「戦争を早期に終わらせるための原爆投下だった」?! 当時、アメリカはそう主張したそうだが、間違いなくこれは原爆の威力を人体で実験したものだ。そして、悲劇だと感じることは、これだけの悲惨な事実を産みながら　世界では地上、地下の核実験がその後何年にもわたり幾多の国で繰り返されていることだった。「人間はいつになったら殺し合いの兵器をつくる事をやめられるのだろうか・・」大きなため息をつきながら出口に向かうと、そこにはまたらせん状の歩道が。壁面に年号はない。しかし、一歩一歩「現代」に近づく中で　今、私たちに課せられている事は、原発を含めた核廃絶の方向を推し進めるしかないことを強く感じた。

東深井　Ｙ子



あすなろ川柳

●TPP
全ては裏で
オモテなし
何にも資料を出さずに国会審議。出てきたのは真っ黒げの墨塗り文書

●自慢気に
秘密を語って
墓穴掘り
全ては秘密といいながら、得意になって本に書いてしまった自民委員長

●保育より
待機議員が
気にかかり
保育所問題急浮上、このままでは自民党議員が選挙で落ちると

●金持ちの
税金避難民？
パナマまで